

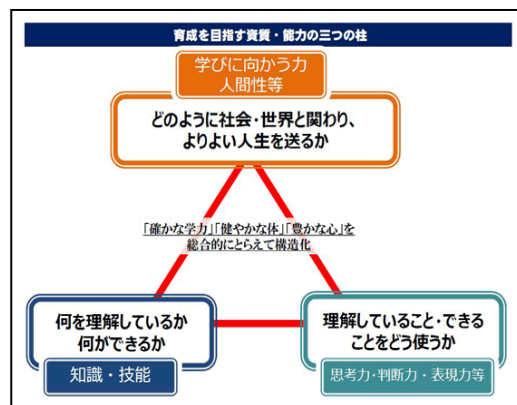
極小規模校における「主体的・対話的で深い学び」に視点を当てた授業改善3

三島村立三島竹島学園

1 研究のねらい

現代社会はグローバル化の急速な進展や少子高齢化，高度情報化など変化の目まぐるしい状況にあり，将来の予測を難しいものとなっている。これからの時代を生きていく児童生徒には，自立した人間として自らの人生を切り拓き，他者と協働しながら，目の前の問題を解決していく力が求められている。

新学習指導要領では，子供たちに育成する三つの資質・能力が示され，「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って学び，全体を改善していくことが求められている（図1）。本校においても，このような資質・能力を育成するために，問題解決的な学習の中で，「主体的・対話的で深い学び」を実現させるような授業方法の改善が求められている。



【図1】

2 研究の概要

本校では，平成30年度から「主体的・対話的で深い学び」に視点を当てた授業改善に取り組み，3か年の研修を積み重ねてきた。これまでの研究の成果として，対話的な学びを促すために遠隔授業を行うことで，子供たちは新しい考えに出会い，新しい知識を得ることができるなど，一定の成果が見られる。特に遠隔授業に関しては全職員が実践し，学校全体で取り組む雰囲気が醸成されている。そこで，研究3年目の今年度は，遠隔授業をより効果的に進める方法について研究を深めていくことにした。

3 研究の内容

研究主題に迫るために，研究の視点を次のように設定した。

- (1) 主体的・対話的な学びを促すために，教科等や単元によって誰と遠隔授業を行うと効果的か，検証していく。（例：同じ学年の児童生徒・専門家・外国で生活する人など）
- (2) 主体的・対話的な学びを促すために，どの教科等で取り入れるか，また，その教科の中のどの部分で遠隔授業を取り入れるとより効果的かということを検証していく。
- (3) 主体的・対話的な学びを促すために，授業の中のどの過程で遠隔授業を取り入れるとより効果的かということを検証していく。

4 研究の実際

特別の教科 道徳 主題名 おたがいのけんり [C—(12)規則の尊重]
三島竹島学園5・6年 4名，三島大里学園5・6年 6名によるTT授業の実践例

(1) 本時のねらい

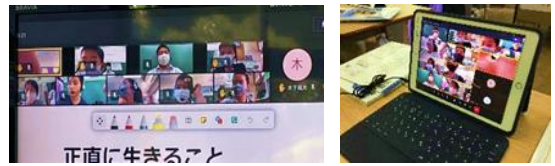
- ア 自他の権利を大切にするとともに，よりよい集団生活のために自らの義務を果たすことの大切さに気付くことができる。
- イ 自分も相手も気持ちの良い生活を送るために，普段からどのように行動すべきか理解することができる。

(2) 本時

観	主な学習活動 ④=発問	観	指導の手立て ④=評価 T1・T2=役割
で あ う	1 事前アンケートの結果をもとに、本時の学習内容を確かめる。 視点①相手：同じ学年の児童	4	○ 主体的に学習に取り組ませるために、事前のアンケートの結果から、本時の学習の見通しを持たせる。 視点②内容：全体で意見を出し合う
の 世 界	2 「住みよいマンション」を読み、権利と義務について自分の考えを持つ。 ・ 「ルールだけを作ってもだめなのですね」という言葉から、よりよい集団生活のために大切なことを話し合う。 ④ トラブルが解決する様子を見て同さんはどんなことに気付いたのだろうか。 みんなが気持ちよく生活するにはどうすればよいだろう。 視点③時間：音声 off 視点②内容：学校ごとに話し合う	15	○ PCから朗読CDを流す。 ○ 次の対話させる。 T1 それぞれ全体に話 T2 説明を ◇ 他者の生活のために気付くことができる。
の こ ろ	○ 予想される問い なぜきまりは必要なのだろうか。		
み つ め る	3 住みよいマンションを事例として「問い」について哲学対話をおこなう。 視点②内容：グループで対話 (1) ブレイクアールームに分かれ、今回の問いについて話し合う。 (2) グループごとに考えた意見をもとめ、それぞれ発表する。 (3) 今回の問いについて、再度全員で話し合う。 ④ きまりは何のためにあるのだろうか。	20	○ ねらいとする道徳的価値にさらに生きるために、哲学対話の手法を用いて話し合わせる。
の こ ろ	5 今までの自分とこれからの自分についてありかえり、道徳ノートに記入する。 ④ 今日学んだことを今後の生き方にどう生かしていきたいですか。 視点②内容：一人で考える		○ ブレイクアールームを合わせる。 ○ 道徳ノートに振り返りを記入する際は、児童の自己内対話を促すために、モニターの電源を一度切る。 視点③時間：モニター off ○ 書かれた振り返りをもとにして評価をするために、T1・T2がそれぞれの学年の児童のノートを確認する。
	6 教師の話を聞き、余韻を辨 ・ 権利を主張するのは悪		○ 権利の主張は悪いことではないことや、主張する際の留意点を理解させるために、権利の行使について話す。 ◇ 自分も相手も気持ちの良い生活を送るために、事段からどのように行動するべきか理解することができる。

【授業で使用した機器等】

ア teams の web 会議システム



イ teams 内のホワイトボード



【授業研究での意見】

- 少人数であっても、他校とつながることで同学年の児童の考えに触れることができていると思う。
- 1人ずつ繋いで話し合う方法を初めて知った。挙手・拍手など反応が盛んで、子どもたちが慣れていると感じた。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ア 遠隔授業を通して専門家や外国の人など多くの人と関わることでできる環境が整い、特に同学年の仲間が増えることで、児童生徒の学習への意欲が高まっている。
- イ 特別な教科道徳においては、より多くの考えを聞くことで、自己の考えを広げ深めることができた。道徳的価値については、一人一人の捉え方や考えの違いが出され、多面的なものの見方や考え方に触れることができた。
- ウ 教科のねらいや児童生徒の実態に応じて、伸ばしたい力を見極め、相手とつなぐ時間を設定することが有効であった。特別な教科道徳においては、授業全体をつなぎ個別で考える時間はモニターやマイクをオフにすることで、めりはりをつけた学習となった。極小規模校においては、できるだけ多くの意見が出るように、指名したりつぶやきを拾ったりすることで、多様な考え方に触れる機会となり対話的な学びを実現することができた。

(2) 課題

- ア 遠隔授業を行うことが目的にならないように、めざす子供の姿の実現に向けた方法の一つとしての遠隔授業のあり方を追求していきたい。
- イ 遠隔授業におけるコミュニケーションがスムーズできるように、ジェスチャーなど非言語でのルールややり取りのなど、三島村で統一した手引きを作成していく必要がある。

6 今後の取組

実態把握の方法、個の特性に合わせたきめ細やかな指導など極小規模で義務教育学校である本校の特色を最大限生かした学習指導を更に充実させていく必要がある。